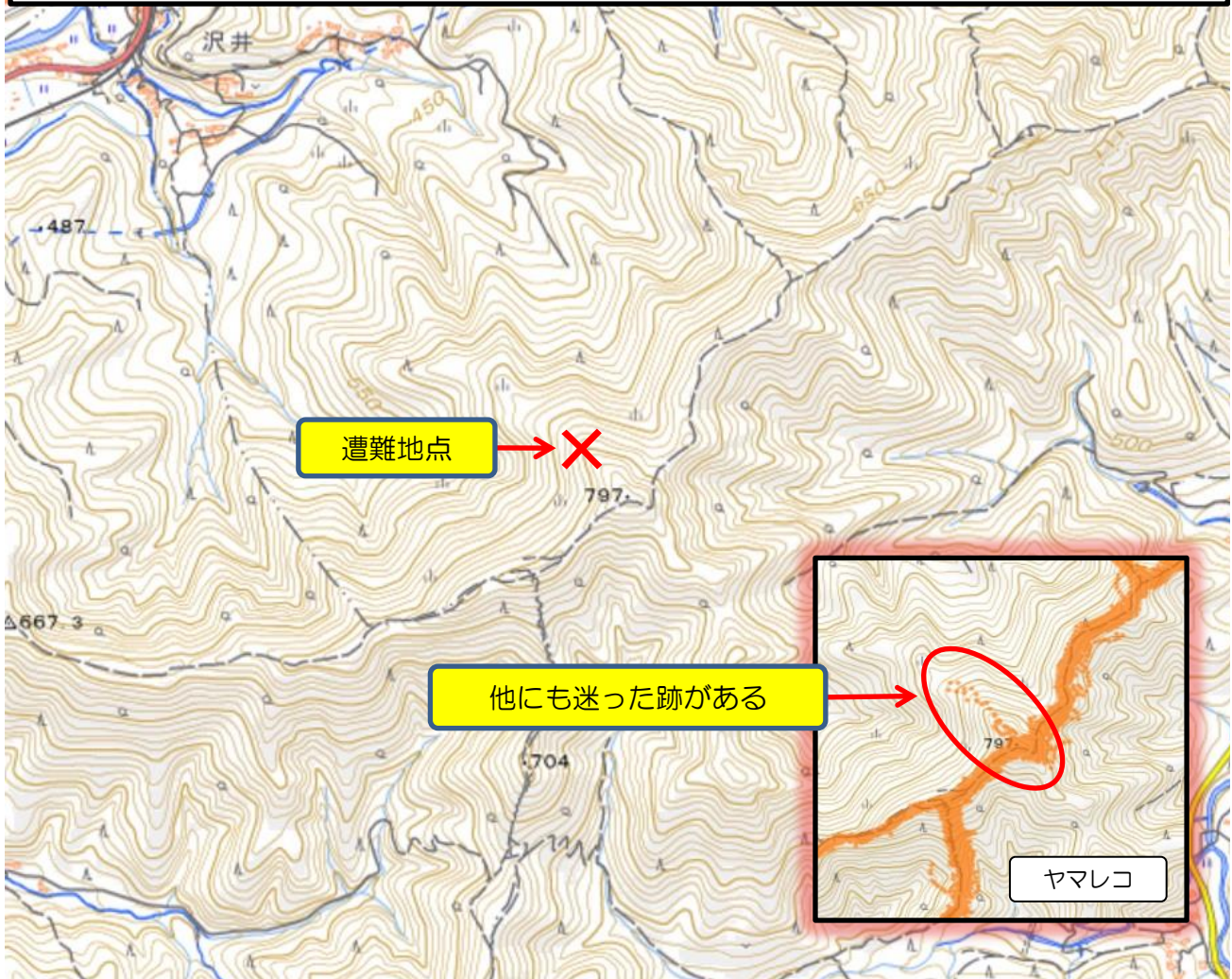


## 馬立山遭難(2022年2月)

82歳男性、単独。下山中、道に迷ったことから山頂まで引き返すも、日没を迎え照明具を所持していなかったことから救助要請。(地上救助隊が救助)



## 解説

どこをどのように道迷いをしたのか不明だが、山頂まで引き返しているの道に迷った後の行動はよいと思う。しかし、日帰り登山とはいえヘッドライトを持っていないのはいただけない。

ヘッドライト、防寒着、カッパ、食料、水、携帯電話、充電器、充電ケーブル、ツェルト等は必要最低限の装備として日帰り登山でも持っていくことが大切である。

遭難事例を調べていると装備不足による救助要請は思ったよりも多い。例えば、①充電器は持っているがケーブルを忘れて、充電できず地図アプリが使えなくなり救助要請。②道に迷ったよりも行動時間が長くなったため、水が無くなり熱中症になった。というような事例がある。その中でもヘッドライトを持っていないため行動不能となり救助要請された事例は最も多い。(スマホのライトでやむを得ず歩いていたが、充電器を持っていないため登山口まで下山できるか不安だった。という事例もあった。)

2月に単独の82歳の男性が、一晩山中で過ごすのは危険である。無事救助されたのは携帯電話が通じたためだと思うが、単独行は、「自分の身を守るのは自分しかない」ので慎重な行動と必要装備を持って安全登山に心がけてほしい。